



2024年 6月19日  
第204号

JR 東労組   
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



# 横浜地本「原因究明委員会」開催



## 駅・車掌・運転士・検修・指令の仲間20名参加

6月17日、大船玉縄学習センター分室において、4月26日東海道線生見尾踏切で発生した人身事故の際に、応援に駆け付けた車両検査係や対向列車の運転士、消防士が作業中に京浜東北線と横須賀線の抑止が解除されていた事象（詳細は横浜地本情報第162号参照）についての「原因究明委員会」を開催しました。駅・車掌・運転士・検修・指令の組合員が集まり、お互いの立場から意見を出し合いました。

### 参加者から出された主な意見

改めて聴き取りが行われたが、事象が産経新聞に掲載され「関東運輸局からの調査依頼があったから実施している」と言われた／現場管理者に聞くと「他の系統のことは聞けない」と言われたのに、千葉支社の報告書にはちゃんと掲載されている（千葉支社の方がわかりやすい）／現場長に「掲示するべきではないか」と求めたが「指示がないから掲示しない」と言われた／他線区では議論がされているのに、「訓練やCSで議題としてやるべき」と投げかけても当該線区なのに議題にならない／CSは結論の出ない議題ばかりやっている／検修も事象を大きくしたくない雰囲気がある／会社は都合の悪いことを隠蔽・矮小化している／IP無線は情報共有ツールと言われるが、実際は指令とのやりとりで抑止ツールとして扱われている／検修には緊急に列車を止める手段がない／指令は現地責任者が安全と認めれば抑止を解除する／逆に現場から「動かさないで」と言われれば指令は絶対に動かさない／会社として消防や警察へJR側の動きなども再度徹底すべき／現場全体に早く動かしたいという雰囲気が漂っていた／私たちの中にも運行優先体質がある／安全のためなら遅れることをお客さまにも認識してもらう必要がある／検修を含めた現車訓練（久里浜）が必要ではないか／全社員が共有すべき事象

矮小化を許さず、二度と同じ事象を発生させないために、真の原因究明と全社員への教育の徹底を求めています！